

環境と人間Ⅱ

日本人の自然観・里山文化

日時：平成19年10月14日（日） 10:00～12:00

講師：川井 秀一（京都大学生存圏研究所長）

概況



里山は荒れてきています。時代に合せて里山を物理的・思想的に位置づけることが必要です。そのために「私たちは何者(日本人)なのか」ということから話を始めます。ここで意識したいのが、時間スケールを把握しながら物事を飲みこむということです。人は空間把握が得意ですが、時間(歴史や文化)把握は苦手です。この講義では○○年前という表現をしていきます。

【日本列島と日本人】

かつて日本はユーラシア大陸と陸続きで、約1万3000年前から1万2000年前に現在の姿の日本列島ができあがりました。大陸から切り離されたことで、他国との交流が一方的(流入)になった結果、自己認識を常に問いかける人種になったようです。愛知県はフォッサマグナ地域の糸魚川ー静岡構造線の西側、植生や文化の境界に位置し、興味深い地域です。

では、日本人はどこから来たのでしょうか。縄文人の祖先はアフリカから世界に散ったホモ サピエンスの一部であるモンゴロイドが4万～3万年前に沖縄等へたどり着いたのだと言われます。また、弥生人は2300年前から2600年前に朝鮮半島経由で渡来し、水田耕作の技術を持ち込みました。現在の日本人は、それぞれの特徴を持っています。自分がどちらの傾向が強いかわかるのも面白いでしょう。

【生物と環境の相互作用】

環境が動けば文化が変化します(環境→植生→文化)。逆に文化が変わると環境

が動きます。これが生物と環境の相互作用です。縄文時代は採集社会が成熟しており、定住し各種の栽培植物の利用をしていました。極相林を破壊し、陽性植物の文化を築きました(二次林化)。ヒトと自然の相互作用により作られた生態系、里山の原型です。以降、農耕や牧畜など、里山を生活資材の生産の場として使ってきました。弥生の風景(水田)は日本人の原風景です。

【日本人の自然観】

日本人の自然観は精神性・感性にまで及んでおり、「自然」「不自然」という言葉があるように自然を外なる自然としてだけでなく内なる自然として生活の規範としていることがうかがえます。里山文化は自然を大切にし、その移ろいに応じ、同化した生活パターンです。かつての日本人の生活に役立ち、それは長期にわたって維持できる条件を備えていました。持続可能な開発のひとつのモデルと言えます。里山の現代的意義をライフスタイルの変化に対応させて見出さねばなりません。